

はじめに「為せば成る」

「大学入学共通テスト」に変わってからの「漢文」といえば、「複数の文章が並んでいる」という特徴に目をひかれがちだが、結局のところ、問題文が複数であれ、そのパターンやバリエーションがどれだけ豊富であれ、求められているのは「漢文を読み解く力」であることに間違いはない。ではその力とは一体何なのか。簡単に言ってしまうと、「基本句形」や「重要漢字の読み・意味」といった(1)「十全な基礎知識」と数多くの問題に取り組むことで養われる(2)「問題形式への慣れ」である。

本書では、(2)「問題形式への慣れ」を完全に養えるように全12題の問題を用意している。各問題文も「単一文章」「漢詩+散文」「散文+散文」「日本漢文+日本漢詩」など、様々な形の入試本番を想定してなるべくバリエーション豊かとなるように意識して作成した。見かけて面食らうこともあるかもしれないが、解説まで熟読した上で、どんな問題であっても結局は一つ一つの文章をしっかりと読めれば解けるのだ、ということを感じてもらいたい。

また、巻末には「基本句形」や「重要表現」、「重要漢字の意味や読み」といった(1)「基礎知識」をまとめている。長く予備校講師として教えてきた経験から、「これらを確実に習得できれば最低限「共通テスト」で困ることはないであろう」というレベルで網羅している。「問題を解いて解説を読む」だけでなく、自分の知識に抜けがないかどうか、本書を通して逐一確認するようにしてほしい。

二〇二五年一月実施の「大学入学共通テスト」より、国語は第3問（実用的文章）が追加され全5大問となり、解答時間も10分増えて計90分になることが発表されている。全体的に時間に追われる厳しい科目であることは間違いないであろうが、漢文は正しい力をも身につけさえすれば必ず得点源にできる科目である。本書が少しでも役に立つてくれること、引いては志望大学に合格してくれることを、切に願っている。

本書の使い方　～四箇条～

第一条 本書の問題はすべて共通テスト本番を意識して作題しているため、各問題の目安解答時間は15分～20分程度であるが、本書に取り組む今の時点では制限時間内で完結させることだけが大切なのではない。もし解答し終わらない場合には随時延長してもかまわないので、一つ一つの問題にじっくり取り組むこと。本書での学習を繰り返すことで、自ずと問題を解くのにかかる時間も短縮できるようになるはずである。

第二条 問題を解き終わった後は、解答と配点を確認するだけでは足りない。正解か不正解かを問わず、自分の考え方が正しかったのかどうか、あるいは予備校講師が普段どう思うかで問題に取り組んでいるのか、解答までのプロセスについて【説問解説】を熟読して確認すること。

第三条 字の読み方や解釈がわからなかった場合には、【書き下し文】や【全文解釈】を読んで逐一確認すること。特に【書き下し文】については、（恥ずかしいかもしれないが）最低でも1回は音読してみることをオススメする。目で見るだけでなく、口と耳も使うことで漢文独特の言い回しや表現により早く馴染むことができるのである。

第四条 【基本句形】や【重要漢字の読み方・意味】について、特に押さえておいて欲しいものを解説編の巻末に一覧化してある。各回の解説末尾でも、その問題で出てきた重要な句形や漢字を挙げており、巻末の一覧にも掲載されているものについては各種番号で紐づけているので、ぜひ有効活用してほしい（なお、本書を通して、（セ）は活用語の未然形、（ス）は活用語の終止形、（スル）は活用語の連体形を、それぞれ表すものとする）。

目次

第 1 回	漢詩「新婚別」+ 論評「杜鵑」	〔漢詩+散文〕	6
第 2 回	小説「閨微草堂筆記」	〔單一文章〕	16
第 3 回	史伝「孔子家語」	〔散文+散文〕	24
第 4 回	思想「孝経」+ 史伝「冊府元龜」	〔散文+散文〕	32
第 5 回	隨筆「閨窓瑣言」	〔散文+散文〕	42
第 6 回	隨筆「南康直節堂記」	〔散文+散文〕	52
第 7 回	史伝「統資治通鑑長編」	〔單一文章〕	60
第 8 回	隨筆「夢内并序」+ 漢詩「夢亡妻」	〔散文+日本漢詩〕	68
第 9 回	隨筆「元城語録」+ 論評「元城語録解」	〔散文+散文〕	76
第 10 回	隨筆「心伝録」	〔散文+散文〕	86
第 11 回	隨筆「惜抱軒文集」	〔單一文章〕	94
第 12 回	漢詩「病橘」+ 散文「雍録」	〔漢詩+散文〕	100

第1回

次の漢詩は、出征した夫に対する妻の想いを詠んだ、杜甫の「新婚の別れ」である。これを読んで、後の問い(問1〜6)に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。(配点

45)

兔糸(注1) 附蓬麻(注2)

引蔓クコト つるツ 故不長ヨリ カ

(注)

1 兔糸——ネナシカズラ。他の植物に蔓をからませて寄生する。

嫁女シテ むすめツ 与征夫フルハ

不如(ア) 棄路傍レ

2 蓬麻——ヨモギとアサ。いずれも丈の低い植物。

結髮(注3) 為君妻レ

席不煖君牀(注4) あたたメ (注5) シヤウツ

3 結髮——成人して髪を結うこと。

暮婚ニ 晨告別シテ あしたニ ヲ

無乃太忽忙(イ) 無ニ 乃太 忽 忙

4 席——寝台に敷く敷物。

君行ガ 雖不遠モ

守辺赴河陽リテ ヲ 赴ク (注6) ニ

5 牀——寝台。

6 河陽——地名。河南省孟県。

妾身セムガ 未二分(注7) 明ナラ

何以拜ツテカ セン 姑嬢(注8) シヤウツ

7 未二分——嫁いだばかりで、妻としての立場がはっきりしていない。

父母養我時レヒシ ヲ

日夜令我藏ム ヲ シテ セ

8 姑嬢——しゅうとめとしゅうと。

【基本句形一覧】

一 「再読文字」

5	4	3	2	1
宜 <small>よし</small> <small>シ</small> 一 (ス)	須 <small>すべから</small> <small>ク</small> 一 (ス)	応 <small>おこ</small> <small>ス</small> 一 (ス) 当 <small>あた</small> <small>ラ</small> 一 (ス)	目 <small>め</small> <small>ト</small> 一 (セ) 得 <small>え</small> <small>ト</small> 一 (セ)	未 <small>いま</small> <small>ト</small> 一 (セ)
読み	読み	読み	読み	読み
宜しく—〔す〕べし	須らく—〔す〕べし	応に—〔す〕べし 当に—〔す〕べし	目に—〔せ〕んとす 得に—〔せ〕んとす	未だ—〔せ〕ず
意味	意味	意味	意味	意味
—するのがよい	—する必要がある —しなければならない	当然—するはずだ きっと—するにちがいない	—するつもりだ (いま)も—しようとする	まだ—しない

【重要漢字一覽】

（主に名詞として用いられるもの）

- | | | |
|----|-----|---------------------|
| 1 | 聖人 | 最も優れた道徳と知恵を持つ理想的な人物 |
| 2 | 君子 | 徳のある立派な人 |
| 3 | 小人 | 徳のないつまらない人・わたし（一人称） |
| 4 | 匹夫 | 身分の低い者・庶民・取るに足りない者 |
| 5 | 丈夫 | 一人前の男 |
| 6 | 大丈夫 | 立派な男子 |
| 7 | 百姓 | 人民・庶民 |
| 8 | 故人 | 昔なじみ・旧友 |
| 9 | 知音 | 真に自分を理解してくれる親友 |
| 10 | 不肖 | 愚か・愚か者 |
| 11 | 上 | 天子・皇帝 |
| | 上 | 水辺・岸辺・かたわら |
| 12 | 左右 | 侍臣・側仕えの者 |
| 13 | 白首 | 白髪頭・白髪頭の老人 |
| 14 | 人間 | 世間・俗世間 |
| 15 | 為人 | 人柄・人格 |
| 16 | 字 | 人の呼び名（孔子は、名は丘、字は仲尼） |
| 17 | 干戈 | 戦争（「干」は盾、「戈」は矛） |
| 18 | 兵 | 兵士・軍隊・武器・戦争 |
| 19 | 鬼 | 死者の魂・幽霊 |
| 20 | 粟 | 穀物・俸禄 |
| 21 | 家書 | 家族からの手紙・家族への手紙 |
| 22 | 雁信 | 手紙 |

漢詩についての基礎知識

- ・「古体詩」…句数が不定。換韻（二首の中で韻字が変わること）する場合もある。五言古詩・七言古詩・四言古詩など。
- ・「近体詩」…唐代に成立した詩の形式。一句あたりの文字数と句数で名称が変わる（具体例については左表を参照）。
- ・原則、偶数句末で押韻する（左の◎が押韻箇所）が、五言詩で初句に押韻したり、七言詩で初句に押韻しない、など例外はある。
- ・奇数句＋偶数句（＝聯）で意味上のまとまりを表す（二句連続の原則）。
- ・原則として律詩の頷聯（三＋四句）と頸聯（五句＋六句）で「対句」を表す（中聯とも呼ぶ）が、例外もしばしばある。
- ・五言詩は二・三に、七言詩は四（二・二）・三に読む。

・「五言絶句」…一句あたり五文字かつ計四句

起句 ○○／○○○ 承句 ○○／○○○
 転句 ○○／○○○ 結句 ○○／○○○

・「五言律詩」…一句あたり五文字かつ計八句

首聯 ○○／○○○
 頷聯 ○○／○○○
 頸聯 ○○／○○○
 尾聯 ○○／○○○

・「七言絶句」…一句あたり七文字かつ計四句

起句 ○○／○○○○○ 承句 ○○／○○○○○
 転句 ○○／○○○○○ 結句 ○○／○○○○○

・「七言律詩」…一句あたり七文字かつ計八句

首聯 ○○／○○○○○
 頷聯 ○○／○○○○○
 頸聯 ○○／○○○○○
 尾聯 ○○／○○○○○